

伊勢地区医師会長賞

『おじいちゃんとおばあちゃんに
できること』

おくもり ほのか

有緝小学校 三年 奥森 穂香

きよ年の十二月、お母さんに、おばあちやんの心ぞうが止まったとよばれて日赤に行きました。おばあちゃんは、口や体にたくさんのホースのような物がついていました。

えいがで見たのと同じような感じで、おどろきました。おじいちゃんはおばあちゃん横で、ワンワンなっていました。いつもおこっているのでびっくりしました。そのときからおばあちゃんは、歩いていません。

わたしのおばあちゃんはにんちしようにです。元気な時は、わたしのおやつを食べてしまったり、へやをぐるぐる回ったりしていました。もっと元気な時は何回もいなくなっていました。家ぞくみんなで、さがしました。わたしも、おばあちゃんにしがみ

ついでに吐いてしまった。お母さんの車の後ろの席でさがしていました。

お母さんから聞いた話では、ま冬にパジャマでそうち小学校の近くまで、歩いていつて夜中にみつかったそうです。おじいちゃんやお母さんは、イライラしたりとてもつかれていました。

今、おばあちゃんはねたきりだけど、首だけうごきます。

おばあちゃんはずつは、いろんなことが分かってわたしたちに長いドッキリをしているんじゃないかなとお母さんが言っていました。家ぞくがにんちしようになると、それを見ている人はたいへんで、おじいちゃんはおばあちゃんを見るのがお仕事と言っていました。おじいちゃんがつかれてしまわないようにおせわを手つだいたいです。おじいちゃんから電話がかかってくる。とお母さんは、「はい。はい。はい。はい。」とめんどくさそうにしています。おじいち

やんが同じお話をするからです。でも、ヘルパーさんは、おばあちゃんのお世話だけじゃなくて、おじいちゃんの話をしつかり聞いてくれて親切にしてくれます。おじいちゃんは話を聞いてもらってとてもうれしそうだからわたしもたくさんお話を聞いてあげたいです。